



安中市合併20周年記念事業

DOMANNAKA2026の開催～この日だけは、安中市が日本のど真ん中～

安中市 地域づくり課、政策・デジタル推進課

2026年3月28日、安中市合併20周年記念事業の1つとして、野外音楽フェス「DOMANNAKA2026（ドマンナカ2026）」が開催された。市内外から約2,400名が「碓氷峠の森公園（峠の湯）」に集まり、大盛況で1日を終えた。

企画がスタートしたのは、2024年冬。合併20周年を迎えるにあたって、安中市長から安中市出身在住のアーティスト茂木洋晃さん（G-FREAK FACTORY）へ「市内で音楽フェスをやらないか」との相談があったそう。対する茂木さんの一言目は、「自治体から補助金は受け取らない」。これは「現実として人口が減っていく中で、補助金頼りのイベントは続かないだろう」と思慮しての言葉だった。なお、安中市の人口は、現在約53,000人だが、24年後の2050年には34,680人に減少すると推計されており、地域経済やコミュニティの縮小などが懸念される。この危機的状況に立ち向かうべく、市の補助金には頼らずに茂木さん自らが代表となって地元の有志を募り、「DOMANNAKA2026」実行委員会を立ち上げた。

「DOMANNAKA2026」は、安中市を市外に大きく発信するとともに、市民が改めて地元を誇りを持てるようにと企画された。

その方法としては、大きく2つ。

1つ目は、コンテンツ。DOMANNAKA2026は、メインステージ、サブステージ、出店エリア、日帰り温泉エリア（峠の湯施設内）で構成。メインステージには、G-FREAK FACTORY含む、全国で活躍するアーティストが出演。一方のサブステージは、安中市出身在住のアーティストのみ出演。出店エリアは、市内経済の循環に貢献できるよう、安中市にお店を構える店舗を中心に選定した。



サブステージ



トロッコ内

加えて、JR横川駅から会場まで、廃線敷を活かした遊歩道「アプトの道」が通っているという、この土地ならではの強みを生かした。多くの来場者に楽しみながら歩いてもらえるよう、道中でのステッカー配布や、国指定重要文化財である「旧丸山変電所」周辺でのステージ設置、トロッコ列車内での演奏など、多様な工夫を凝らした。

2つ目は、会場付近である坂本地区の皆さんとの連携。実行委員会には坂本地区の若者も参加し、地域説明会を2回開催した。また、担い手不足により日の目を浴びなくなった、地区所有の「山車」をメインゲートに設置。当日は、坂本地区の皆さんにこそ楽しんでほしいとの想いから、招待券を配布した。

その結果、出店や公式グッズ、チケットの売り上げは大盛況、黒字となった。また、各SNSで前向きな声や230万を超えるポストインプレッションをいただき、坂本地区の皆さんからも「お祭りを復活させたい」「来年もやってほしい」との声が上がるなど、大成功であった。

「地域づくり」は「人づくり」。「DOMANNAKA2027」の開催は未定だが、出来ることなら継続的に開催し、安中市に住む皆さんにこそ「安中市結構いいじゃん」と言ってほしい。そして、坂本地区で起こった波のように、安中市を誇めず、立ち上がる人を少しでも増やしたい。いつか安中市に住む全員が、「ここが日本のど真ん中だ！」と誇れるように。



メインゲート（山車）

